

博物館だより

No.13

平成 19 年 5 月 1 日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

【企画展】

豊津藩・豊津県の時代展

5月3日(木)～6月17日(日)

当館では、5月3日(木)から、企画展『豊津藩・豊津県の時代展』を開催致します。

慶応2年(1866)8月1日、長州藩との戦いに敗色をみた小倉小笠原藩は、城と城下町に自ら火を放ち、田川郡へ退却しました。藩庁(藩の中心となる役所)は、田川郡香春に置き(一時、同郡添田に移転)、「香春藩」を名乗ることになりましたが、香春の藩庁はあくまで仮のものでした。

そこで、明治元年(1868)11月、藩士100余名が新しい藩庁建設地の投票を行ない、結果、当時「錦原」と呼ばれる原野であった豊津台地が、新しい藩庁建設地に決定したのです。



豊津藩知事 小笠原忠忱(7歳頃)



小笠原忠忱の書「信」(明治4年=1871)

工事は明治2年を中心に急ピッチで進められ、12月には主な役所はほぼ完成しました。藩の名前を新しく「豊津藩」とすることが政府から許可されたのは同年12月24日です。

今回の企画展では、その豊津藩および廃藩置県後の「豊津県」にゆかりの品々、約50点を展示致します。

■会期

5月3日(木)～6月17日(日)

■場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■主な展示品

小笠原文庫ほか所蔵「豊津藩」「豊津県」関係資料約50点

■観覧料

大人 200円
高校生以下 100円

みやこ町が誇る文化財

九州国立博物館に登場!

～下田経塚出土品など、6月10日まで～

大宰府市にある九州国立博物館では現在、特別展「未来への贈り物・中国泰山石経と浄土教美術」が開催されています。この展示は平安時代に流行した経塚供養の遺宝などを紹介するものですが、千年前のご先祖様たちが私たちに伝えようとした数々の「お宝」が展示されています。今回の特別展にみやこ町からも次の2件が出品され、展示に色どりを添えています。

●下田経塚出土品(勝山)

●山鹿宮田遺跡出土品(犀川)

これらはみやこ町自慢の文化財で、単独でも十分な魅力を備えているものですが、今回日本各地はもとより、遠く中国からもたらさ



出品のため慎重に梱包される経筒資料(3月18日)



九州国立博物館での展示の様子

れた品々と一緒に見ることで、その魅力がより一層引き立てられてご覧いただけることでしょう。ゴールデンウィークの目玉として一度お出かけなってみてはいかがでしょうか。なお特別展の概要は以下の通りです。

●期間 平成19年4月10日(火)

～同年6月10日(日)

*ゴールデンウィーク期間中は

無休

●観覧料 一般 1300円

小中生 600円

*詳細はハローダイヤルへ

☎0570-00-8888

知ってるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマか…

みやこの歴史発見伝 ②

下田経塚出土品

ミレニアム(千年紀)騒動

今から八年前、コンピュータが西暦二〇〇〇年の日付を読み取れず、誤作動から金融・交通・医療などあらゆる分野のシステムに障害が生じるおそれがあるとされた、いわゆる「二〇〇〇年問題」が世間を騒がせました。様々な被害を想定した準備がとられたことはまだ記憶に新しいところですが、前のミレニアムにあたる一〇〇〇年前の平安時代、同様の騒動が国内で起こっていたことをご存知でしょうか？

世紀末と末法思想

発端は「釈迦の死後、一〇〇〇年が経つと仏法がすたれる末法の世となり世の中が大いに乱れ終末を迎える。しかし五六億七〇〇〇万年後に弥勒菩薩が釈迦に代わって民衆を救う」という末法思想によるものでした。日本では永承七(一〇五二)年が末法の元年とされ、人々の恐れや不安は大いに高まることとなりました。八年前は世紀末という言葉が盛んに使われましたが、この時代は末法という言葉が同様に用いられたのです。

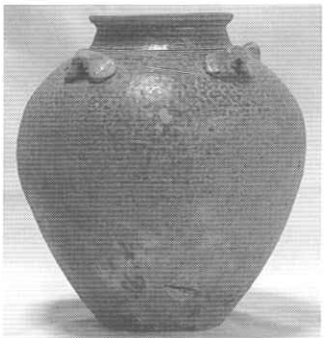
この末法の到来に対し、人々は釈迦の教えである経典を耐久性の強い銅・陶器などで作られた筒状の容器に入れ地中に埋める「埋経」を行ない、経典を地中に保管することによって五六億七〇〇〇万年後の「その日」に備えました。この筒状容器を「経筒」といいます。経典を後世へ伝えることが大きな功德になると考えられ、時の最高権力者である藤原道長が国内で最初に行なった後、各地で埋経供養が盛んに行なわれるようになりました。

平安時代のタイムカプセル

京都郡と田川郡を結ぶ仲哀トンネルの北側約五〇〇mに、みやこ町勝山松田の下田集落があります。昭和四一(一九六六)年九月、集落裏の神社の斜面で土砂崩れがおきた時に小石室が現れ、この中から銅製の経筒が発見されました。経筒には口を下にした状態で壺がかぶせられ、壺の周囲には炭の粉が詰められていました。



銘文の刻まれた経筒



経筒にかぶせられていた壺

経筒は銅製、蓋付きで高さは約二六cm、経筒の表面には如法妙法蓮華經 一部八卷 大治二年 歳次丁未 九月 日次 丙午 十九日勸進 僧經爵 同隆範 鎮西豊前国京南郷霜田補 供養畢

女壇主宗形氏

の五六文字が刻まれていました。壺は中国の宋から輸入されたもので、炭粉は防湿剤として詰めたとみられます。どちらも経典の保護を目的としたものですが、発見当時、経筒の中に経典は確認できませんでした。しかし一五年後、五mほど離れた地点から同様の経筒が出土し、この中から紙に書かれた経典がロール状で見つかりました。これこそ五六億七〇〇〇万年後に人々を救済することを期待された経典でした。この経筒も銅製、蓋付きで、高

約二九cm、銘文は確認できませんでしたが、いずれも仏の教えを未来に伝える「タイムカプセル」だったといえます。

霜田と下田

最初に出土した経筒の銘文から、大治二(一一二七)年九月一日に経爵、隆範という僧侶によって埋納が計画され、そのスポンサーは宗形氏という女性であったことが分かります。「霜田」という地名は、現在「下田」の字が用いられますが、かつてはこの表記が用いられていたようです。また2つの経筒が出土した場所は古記録から「霜田寺」というお寺の跡と考えられ、このお寺の観音堂に吊るされていたとされる鉄製の鰐口が現在も吉富町の八幡古表神社に残されています。この鰐口は慶長七(一六〇二)年の作で、銘文には「霜田寺」の文字が刻まれています。

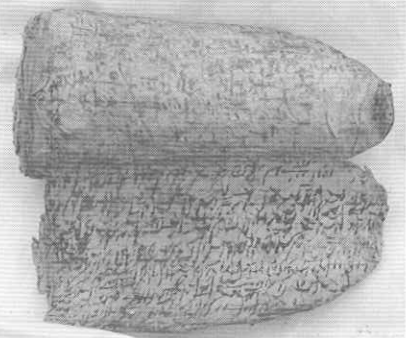
経筒をとりまく環境 経筒の出土した場所から西側には菩提庵寺跡(県指定史跡)があり、ここを中心に平安時代には天台宗の寺院があったと伝えられています。またこの史跡に隣接して行なわれた新仲哀トンネルの工事に伴う発掘調査では、古代の銅製品の工房跡が確認され注目を集めました。というのも、下田は山を隔てて田川郡香春町と隣接していますが、香春町は古代から銅の採掘が行なわれ、宇佐八幡宮に奉納

した銅鏡や奈良東大寺の大仏にもここから採掘された銅が使われているからです。このように下田は銅製品製作に非常に適した場所であることから、経筒はこの地で作られた可能性があるので、未来への贈りもの

近年、みやこ町犀川山鹿で下田経塚と同時代の遺跡から経筒の「鋳型」が出土しました。これは国内初の事例で、経筒の制作過程を明らかにする大変貴重な発見とされています。この、鋳型と経筒がセットで揃ったことで、2つの出土品はみやこ町が他に誇る貴重な文化財となりました。

現在、九州国立博物館における企画展「未来への贈りもの」にこれらの展示品が出品されています。この機会に、五六億七〇〇〇万年後という、気の遠くなるような未来まで経典を伝えようとした人々の思いをご覧になってみてはいかがでしょうか。

(井上信隆)



経筒に納められていた880年前の経典